

令和7年度
芦屋市文化推進基本計画評価報告書
(令和6年度実績)

芦屋市



1 全てのライフステージに文化が行き届く文化政策の推進

【総括】

1 重点取組項目別の総括評価

コロナ禍による事業の中止・活動の停滞等を経て、実施手法の変更など模索しながら進めてきた結果、令和6年度では一部を除き実施。「さくらまつり」、「サマーカーニバル」及び「秋まつり」など本市を代表する大型イベントをはじめ、多くの事業で前年度より参加者が増加傾向にあり、市民団体等においても文化的活動も活性化してきている。引き続き活動支援などに取り組むとともに、情報発信については課題であることから併せて、取り組む必要がある。

また、旧山邑家住宅であるヨドコウ迎賓館が竣工100周年を迎えるに当たり、所有者と連携協力して、コンサート&座談会・講演会、こども向けワークショップの開催、パンフレット・動画の作成に加えて、YouTubeでの多言語配信を行うなど多彩な事業を開催した。市内の歴史的文化遺産の効果的な活用により、地域の賑わいの創出と愛着への意識の醸成を図った。

引き続き、文化活動の支援の継続と歴史的文化遺産の保存活用を進めていく。

2 新規・拡充検討項目に関する進捗状況

<文化財保護及び活用事業の実施>

本市の文化財に対する理解・関心を深める事業の実施については、ヨドコウ迎賓館竣工100周年記念事業において、こども対象ワークショップの開催やコンサート&座談会・講演会、市民センターでの記念特別展示を実施した。

<市民センター管理運営事業>

今まで窓口でしか行っていなかった抽選方法から、新たにネットによる利用申請から決定、決済までを可能としたことで、利用者の利便性の向上を図った。

<芦屋川カレッジ・芦屋川カレッジ大学院事業>

文化や歴史等の講義や国指定重要文化財のヨドコウ迎賓館100周年にあわせた見学会を実施した。

<ソーシャルメディア等を活用した情報発信>

ヨドコウ迎賓館の紹介動画の作成及びYouTubeで多言語による配信、パンフレットの刊行など、市民に分かりやすく市内の文化施設の紹介や文化史跡の説明などの情報の発信に努めた。

<取組成果・課題>★一部抜粋

(1) 誰もが文化を身边に楽しめる仕組みづくり

・事業No. 1 各種媒体を活用した情報発信

<取組成果>

市の広報紙では時勢に応じた文化事業の周知啓発に加え、地域のイベント情報の発信を実施した。市民が市への愛着と関心を深めるきっかけとなるよう、各種媒体の特性を活かし、市内の移り行く季節の風景などの動画を撮影・編集・投稿した。また、広報番組をYouTubeで配信するなど動画を用いることで、より市民に分かりやすく市内の文化施設の紹介や文化史跡の説明等の身近な情報の発信に努めた。

・事業No. 5 あしや山まつり事業

<取組成果>

令和5年度は雨天のため実施できなかったが、令和6年度は天候にも恵まれ実施できた。ハイキング、モルックや走り方教室などのスポーツ・体験コーナー、キッチンカーによる飲食物の販売が好評であった。

・事業No. 6、7 ワンコインシアター、ヒューマンライツシアター

<取組成果>

市民の居場所づくりとして、市内に映画館がないため、名作映画の上映会を実施。古き良き時代の名作を幅広い年齢層に紹介することで、懐かしい思い出や新しい発見を見つけることにつながり、世代を超えた交流の場を提供している。両事業ともに昨年よりも参加者が増えた。

<課題>

参加者について高齢者が多いので、若年層への周知方法を検討する必要がある。

・事業No. 8 保健福祉フェア

<取組成果>

保健福祉等にかかる市の事業・団体活動の周知を目的として開催し、延べ5,000人を超える参加があった。アンケートでも、「初めて來ました。こんなにいろいろされているのを知り來て良かったです。」「見て学べるのでまた來たいです」等肯定的な意見が多くあった。

・事業No.9 サマーカーニバル開催支援

<取組成果>

芦屋市民まつり協議会が開催する第46回芦屋サマーカーニバルの活動助成及び交通安全対策に対し助成金を交付した。

昨年に引き続き、会場を締め切り、事前申込及び有料観覧のみで実施された。来場者数は、砂浜や有料観覧席等と周辺地域で40,100人であった(前年比約2割増)。

<課題>

今後も会場内を事前予約及び有料観覧のみに限っての開催となる場合、市民が取り残されない対策を講ずる必要がある。

会場内や公園内に入場できる対象が有料観覧や事前予約者に限られるため、その他の人々が会場外に滞留することが考えられ、雑踏警備体制強化も必要となる。

(2) 文化活動を通じた地域のつながりづくり

・事業No.26 通いの場づくり補助事業

・事業No.27 ひとり一役活動推進事業

<取組成果>

通いの場づくり補助事業では、事業利用団体が4団体だった。ひとり一役活動推進事業では登録者数が91人から97人に微増しており、活動件数も増加傾向にあるため、継続的に地域活動の促進と介護予防の推進に寄与することができた。

<課題>

事業の周知啓発や活動先の拡充等について、改めて検討する必要がある。

(3) ユニバーサル社会づくりを目指した生涯学習活動の振興

・事業No.41 エントランスコンサート

<取組成果>

福祉センターが市民の集いの場となるよう、エントランスコンサートを実施(手話歌レッスンや障がいのある人などが出発)、昨年度より参加者が増加した。

・事業No.45 敬老会

<取組成果>

高齢介護課が主催の敬老会事業において、昨年度と同様、式典及び余興を催すことができた。

<課題>

対象者が微増する中で多くの方が喜んでいただけるような工夫の仕方は引き続き取り組んだ上、様々な感染症の対策実施方法等は課題である。

(4) 文化ゾーンの活性化、各種施設の有効活用

・事業No.6 4 文化ゾーン連携事業（n i w a – d o k u、講座の開催）

<取組成果>

令和5年度は雨天ため実施できなかつたが、令和6年度は3館連携事業として、「n i w a – d o k u」が開催できた、引き続き、文化ゾーンの活性化として継続していく必要がある。

<課題>

天候に影響されないイベント内容に転換することや、雨天順延のための予備日を設けることなども含め検証する必要がある。

(5) 文化芸術を行う団体への支援

・事業No.6 5 市民文化賞

<取組成果>

文化の高揚・生活の向上に貢献した功績が顕著な者に対し、文化賞を贈り表彰することにより、市民文化の向上発展をはかることを目的としている。

また、受賞者のうち任意で入会ができる芦屋市民文化賞受賞者懇話会「菊寿会」は文化的諸事業への協力を通じて、市民文化の向上発展に寄与している。

<課題>

現在、市民文化賞の候補者は菊寿会及び各部からの推薦によっているが、各部からの推薦が少ない状況もあり、候補者の掘り起しが課題となっている。

・事業No.6 7 市後援名義の使用承認

<取組成果>

学術、文化、スポーツ及び福祉に関する事業を行う団体に対し、市民参画・協働推進課（102件）と教育、学術、文化及びスポーツに関する事業に対し、芦屋市教育委員会管理課（208件）で後援名義の使用を承認した。文化活動等の振興を図った。

<課題>

市民の文化活動促進に寄与する事業であるかどうかの適切な審査を行うことが課題で

ある。

・事業No.70 市民提案型事業補助金

<取組成果>

市民から社会課題の解決など自主的な取組として提案のあった活動に対して補助金の交付を行っている。地域サポーター養成型2件と自由提案型2件の事業について補助金を交付した。

市民活動をしたいが資金面で困難を抱えている市民に対し、補助金を交付することで活動を後押しし、市民活動の活性化を図っている。

<課題>

事業実施後に活動が継続的に行われているかを確認していくことや、申請者にとってより申請しやすい制度設計を行っていくことが今後の課題である。

(6) 文化に関する情報発信の強化

・事業No.76 文化財保護及び活用事業（情報発信）

<取組成果>

ヨドコウ迎賓館の紹介動画の作成及びYouTubeで多言語による配信、ヨドコウ迎賓館のパンフレットを刊行するなど市民に分かりやすく市内の文化施設の紹介や文化史跡の説明などの情報の発信に努めたことによりまちの魅力向上に寄与した。

2 未来を切り拓く子どもたちへ向けた文化政策の推進

【総括】

1 重点取組項目別の総括評価

令和4年度の全中学校での給食実施により、本市の特色の一つである自校式の学校給食を通じた食育が中学校においても取り組めるようになった。物価高騰の中においても工夫を凝らし、安心安全な食を提供している。学校と家庭・地域社会との連携を強め、児童生徒の健全な心身の発達に資する望ましい食生活を探求することを目的に、地産地消や地場産物への意識向上などの継続的な取組のほか、ブルーシーフードの取組を市立小中学校の給食においても継続実施している。

2 新規・拡充検討項目に関する進捗状況

<小中学校における食育の推進>

各校に配置されている栄養職員を中心に、おいしい給食の提供だけでなく、子ども自身が栄養バランスについて考えたり、食事を作ったりすることができるよう指導した。

<学校図書館の活用>

就学前施設の児童が小学校図書館に行き、就学前児童向けコーナーで絵本に親しむことができた。引き続き、定期的に利用することができるよう取組を進める。

また、多様な読書活動に対応できるよう、学校図書館を「読書センター」「学習センター」「情報センター」として、さらに充実させていく。

<外国人児童生徒等の日本語習得支援>

今年度から新たに日本語支援コーディネーター（週2回）を配置し、指導内容はより充実した。今後は、学校との連携を一層強化していく。

日本語支援員15名、母語支援員15名を配置したことでの安心して学校生活を送ることができた。しかしながら、現状、十分とは言えず、急な配置が必要な際に、支援員を迅速に配置できないという課題がある。

<アプリやホームページ等を活用した情報発信>

子育てアプリを活用して、情報を隨時発信できるよう、他部署から広く記事を募集し、未就学児対象のイベント情報や講座、説明会等の開催情報を、子育て家庭に配信した。保護者にリーフレットを配布するなどして、引き続き子育てアプリの周知を行っていく。

<取組成果・課題>★一部抜粋

(1) 情操を育む体験活動の推進

・事業 No. 8 8 読書活動推進事業

<取組成果>

スタンプラリー及び読書記録カードを市立小学校へ配布し、活用の推進を図った。スタンプラリーの達成者は、令和6年度の1年間で1,229人となり、達成者数も昨年度より増加している。

・事業 No. 9 1、9 8 あしやキッズスクエア

<取組成果>

地域の見守りを受けながら、放課後に校庭や校舎を利用し、安全に過ごす「居場所づくり」については、市内8小学校で延べ1,823日開催し、体験プログラムは459回実施。昨年度よりも開催日及び体験プログラム回数も増やすことができた。

<課題>

地域・企業・N P O・高校・大学と協働し、様々な体験活動を児童に提供する「体験プログラム」については、開催日と体験プログラムの実施回数の増加を優先し、積極的な連携・協働の拡充には至らなかった。

(2) 地域社会とのつながりによる文化体験

・事業 No. 9 5 トライやる・ウィーク推進事業

<取組成果>

生徒の主体性を尊重した様々な活動や体験を通して、豊かな感性や創造性を高めることができるよう支援するなど、「心の教育」を推進している。また、他者と協力・協働して社会に参画する体験活動を通じ、生徒のキャリア教育を支援し、地域に学び、共に生きる心や感謝の気持ちを育む活動につながった。

<課題>

受け入れ事業所数の更なる増加を目指し、選択肢となる職業分野を増やすことや、期間外にも地域とのつながりが持てる活動を増やし、「地域コミュニティの構築」に心掛けて活動を推進して行く必要がある。

・事業 No. 9 9 図書館運営事業（学校・幼稚園への貸出、団体受入）

<取組成果>

定期的に園児に図書館本館や分室の絵本を貸出している。その際に、絵本に親しむ機会となるよう絵本の読み聞かせを行っている。市内の小学校から図書館見学の希望があれば、受け入れを行った。

<課題>

より本に親しむ機会を創出できるよう、令和7年度からは学校図書館とシステム連携を行い、各学校との協力連携に努める。

(3) 親子に向けた積極的な情報発信

・事業 No. 1 0 3 美術博物館管理運営事業（情報発信）

<取組成果>

SNS(X)で子ども向けイベント情報の発信および展覧会の子ども用チラシを市内の公立小学校・中学校の全児童・生徒に配布し、周知啓発を行った。

<課題>

紙媒体を減らしてタブレットでの配信への移行を検討する必要がある。

3 芦屋文化を生かした戦略的なまちづくり

【総括】

1 重点取組項目別の総括評価

エリアマネジメントとして取り組んできた「打出の小道プロジェクト」により整備された打出教育文化センター、打出公園及び図書館打出分室が新たな文化の拠点、市民相互の交流の場となるよう、イベントの企画・広報を一貫して学ぶ講座を開催するなど、「集まる場」をさらに有効に活用していただくためのイベントを実施した。今後も継続的にぎわいにつなげていけるよう取組を進める。

2 新規・拡充検討項目に関する進捗状況

<多言語への翻訳や「やさしい日本語」による情報発信による交流機会の創出>

広報紙や防災などの情報発信として、希望者に対して、やさしい日本語と英語によるメール配信を実施。複数の媒体による多言語での市内のイベントや防災などの様々な情報の配信に努めた。

<周辺地域・学校園等との連携>

「学校連携及び障がい者等宅配事業」を実施し、主に学校との事業連携に努めた。

より本に親しむ機会を創出できるよう、令和7年度からは学校図書館とシステム連携を行い、各学校との協力連携に努める。

<I C T 等の活用など読書に親しむことができる環境の整備>

I Cタグによる図書の管理、及び自動貸出機、予約本受取コーナーを設置し、市民サービスの向上を図った。自動貸出機の利用向上のため、窓口業務委託事業者と連携し、手続き支援補助や周知啓発に努めた。

<公民館図書室の整備>

芦屋市図書館本館のシステムの更新に伴い公民館図書室にもI C機器を導入するとともに、当該機器に対応するよう書籍等へのタグの貼り付けも併せて整備するなど図書室資料等の効率的な管理や市民サービスの向上を図った。

<取組成果・課題>★一部抜粋

(1) 暮らしに根ざした文化交流のまちづくり

- ・事業 No. 104 各種媒体を活用した情報発信

<取組成果>

新たに多言語情報配信クラウドサービスを開始した。日本語を含む10言語でオンライン情報配信を行うことで、より早く大切な情報を多くの方に伝えることができた。また、読み上げ機能やUDフォントを使用しているため、目の不自由な方への配慮やこどもや高齢者にも伝わりやすい発信ができた。また、希望者に対して、やさしい日本語と英語による、月一回程度、広報紙の内容や防災など日常生活に必要な情報をメール配信した。

- ・事業 No. 105 潮芦屋交流センター事業

<取組成果>

潮芦屋交流センターでの多文化理解や文化活動の推進するための事業として、地域とのつながりづくりのイベントの開催や日本語ボランティア養成セミナー、外国人と地域交流コンサートや世界の料理教室、講演会、文化教室などを実施し、多文化共生理解事業に努めている。

- ・事業 No. 106 姉妹都市交流事業

<取組成果>

交流事業では学生親善使節として本市から2人がモンテベロ市へ訪問し、モンテベロ市からも2人が本市を訪問した。交流事業の参加人数は573人であった。

(2) 芦屋らしい良好な住まい・景観づくり

- ・事業 No. 112 道路の改良事業

<取組成果>

都市防災の強化、通行空間の安全性及び快適性の向上、良好な都市景観の形成を目的として、引き続き無電柱化を推進。六麓荘地区無電柱化工事を実施した。

- ・事業 No. 113 庭園都市推進事業

<取組成果>

「芦屋オープンガーデン」として、花と緑いっぱいのまちづくりに向けた市民との協同を目的とし、花と緑のまちづくりの推進のため個人宅、マンション敷地、学校園、公園で活躍されている個人・団体から参加を募り、庭や花壇を公開するイベントを行っ

た。実施期間は4月13日から17日と、5月8日から12日。参加者数（オープンガーデン箇所数）は179箇所（令和5年度：183箇所）で、前年度より微減した。

<課題>

「みどり豊かな美しい住宅都市」の継承に向けて、開催20回目の節目を迎える令和7年度では、参加者数の増加を目標とする。

(3) 読書のまちづくりの推進

・事業 No. 124 絵本の会

<取組成果>

絵本との出会いのきっかけや本の興味が広がることを目標に毎週土曜日に開催。

<課題>

より多くの方に継続的に絵本の会に参加してもらえるよう、開催日等を検討する必要がある。

(4) 文化を通じたまちの魅力の一体的な発信

・事業 No. 136 文化財保護及び活用事業

<取組成果>

新たにヨドコウ迎賓館の土地が国指定重要文化財として追加指定された。

また、市内で4件の国登録有形文化財が登録された。

地域に残る歴史文化遺産の価値や魅力を積極的に発信することによって、市民が歴史文化遺産に触れ、身近に感じる機会を創出に努める。

指 標	単位	現状値 (R5実績)	めざす値 (R7)	現状値 (R6実績)
1 全てのライフステージに文化が行き届く文化政策の推進				
① この1年間における文化体験・活動の有無	%	—	70.0	78.0
② 公民館講座等の受講率	%	70.5	85	77.9
③ 1年間で自発的に学びを得る機会があった人の割合	%	—	52	35.1
④ 芦屋市内の主な歴史的・文化的な資源の知っている割合	%	—	70	82.7
⑤ 美術博物館の展覧会の満足度	%	42.3	50	39.9
⑥ 「広報あしや」の市民の満足度	%	—	70.0	67.5
⑦ 市ホームページの市民の満足度	%	—	60.0	34.4
2 未来を切り拓く子どもたちへ向けた文化政策の推進				
⑧ あしやキッズスクエアでのプログラム実施回数	回／年	361	920	459
⑨学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たり1時間以上、読書をする(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)生徒の割合	% (小学生)	20.8	22	—
	% (中学生)	13.9	15	—
3 芦屋文化を生かした戦略的なまちづくり				
⑩NPOなどの団体と協働して開催した国際理解を深めるための講座の参加者数	人／年	206	250	282
⑪地域におけるまちなみとまちなかの緑の景観の美しいと感じている人の割合	%	93.4	91.3	95.1
⑫公園を年数回以上、利用したことがある人の割合	%	49.8	60.0	45.1
⑬公立図書館における市民1人当たりの図書貸出冊数	冊／年	7.1	8	7.3
⑭「定住意向」に対して、「今の場所に住み続けたい」「市内の他の場所で住み続けたい」と回答した割合	%	86.6	84.3	86.4